都市近郊の普通の高校生が漁師になる方法

夷隅東部漁業協同組合
田中　信生（有限会社年丸勤務）

1．地域及び漁業の概況

いすみ市は、千葉県の南東、房総半島太平洋岸のほぼ中央に位置し、温暖な気候に恵まれています。(図 1)

大漁と五穀豊穣を祈願し、神輿が一斉に海へと担ぎ込まれ海中でもみあう「大原はだか祭り」は、関東随一の祭りとして有名で、漁業と密接な繋がりを持っている地域であることが窺えます。

いすみ市には私の所属する夷隅東部漁業協同組合があり、小型漁船による様々な漁業が営まれています。

図 1　いすみ市位置図

特に、いすみ市大原沖には「器械根」と呼ばれる全国有数の広大な岩礁帯があり、多くの魚介類が生息しています。

この器械根を主漁場としたイセエビ固定式刺網漁業、イナダまき刺網漁業、タイ、ヒラメ、ホウボウ、トラフグはえ縄漁業、たこつぼ漁業などが盛んです。

平成 24 年度水揚量は約 1,800 トン、水揚金額は約 6 億 5000 万円で、中でもイセエビは約 1 億 5000 万円と、漁協の水揚金額全体の約 1/4 を占める重要な魚種です。

なお、漁協が取り扱うイセエビは「伊勢海美」として平成 17 年に商標登録され、市場に出荷するほか、漁協直売所（いさばや）でも販売されています。

2．年丸の漁業

私が現在就業している有限会社年丸（以下年丸）は、いすみ市大原漁港を拠点とし、私を含め社員（乗組員）3 名の家族経営型の会社です。

表1　年丸の1年間の主な操業形態

漁業種類	主な魚種	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
刺網	イセエビ				↔	↔			↔	↔	↔		
まき刺網	イナダ	←	←	←	←	←	←	→					
たこつぼ	マダコ	→	→	→									←
はえ縄	マダイ			↔	↔	↔	↔	→			↔	↔	↔
	ヒラメ・ホウボウ	→	→	→									←
	トラフグ											↔	↔

小型漁船としては珍しく平成 4 年に法人化しており、操業は 1 月～7 月のイナダまき刺網と 8 月～5 月のイセエビ固定式刺網を中心にはえ縄、たこつぼ漁業などを兼業しながら 1 年を通じて漁を行っています。

(表 1, 図 2)

図 2　会社所有の小型漁船（年丸）

3．漁師になるために

3-1　生い立ち～希望実現へ向けて

私の出身地である千葉県市原市は東京湾に面していますが、埋立造成された日本有数の工業地帯のため、ここを拠点とした漁業は営まれておりません。

そういった地域のサラリーマン家庭に生まれ育ったため、漁業といっても新聞やテレビで見る「魚を獲る」光景くらいしか知りませんでしたが、小学生の頃から魚を食べるのが好きで、もっと美味しい魚を食べたいと思った結果、漁師になるのが一番と考えました。

両親も「自分がなりたい仕事に就くのが一番だ」と、反対することも無かったため、小学生の頃から「将来は漁師になる」ことを本気で考えていました。

しかし、中学3年生になり今後の進路を決める際、担任の先生からは「漁師という職業は安定していない」といった理由で反対されてしまいました。

反対されたものの漁師になることを簡単に諦めることはできず、県立高校の水産科に進学することが漁師になるための近道と考えましたが、自宅から遠く通学困難なこと等から断念し、地元の県立高校の普通科へ進学しました。

そのため、漁業とは無縁の高校生活を送っていましたが、漁師になりたいという思いは日に日に募っていくばかりでした。

高校3年生になった時、漁師になるためにどうすればよいか、誰に頼るでもなくインターネットなどを使っていろいろ調べてみたところ、「漁業就業支援フェア2011」というイベントが東京で7月に開催されることを知りました。

3-2　漁業就業支援フェア

漁業就業支援フェアは、漁師を目指す人や迷っている人、情報収集をしたい人など誰でも来場・参加できるイベントで、新人漁師を募集している漁協や漁業団体、漁業者と直接話ができるとのことから、これは良いチャンスと思い単身で会場に向かいました。(図3)

図3　漁業就業支援フェア会場の様子

フェアには全国から38団体が出展、うち千葉県内からは4団体が出展していました。

特に、千葉県の出展ブースでは県の普及指導員の方から、県内漁業の状況、漁師になるための手順だけでなく、就業を支援するための様々なサポートがあることなど、詳しい説明を聞くことができました。

他県の出展ブースにも訪れ説明を聞いた結果「他県よりも千葉県内で漁師になりたい」

という考えが強まりましたが、この時点では、それも漠然とした思いであり、「どういった漁業種類に就きたい」といった具体的なものではありませんでした。

県内からの出展ブースの中には、現在の就業先である年丸も参加しており、新人漁師を募集していました。

年丸の出展ブースは、多くの来場者が説明を聞くため、終始混雑しており、結局この日は説明を聞くことができませんでした。(図 4)

図 4　出展ブースにて来場者へ説明

3-3　水産業インターンシップ

私が漁業就業支援フェアに参加したことを覚えていてくれた県の普及指導員の方から、後日「水産業インターンシップに参加してみないか？」との誘いがあり、これに迷わず飛びつきました。

水産業インターンシップは、「県水産業に関する知識の習得や、将来の担い手の育成」などを目的として、県内に在住・通学している高校生を対象に毎年行われているものであり、今回の内容は、2 日間（8 月 3 日～4 日）の刺網（イセエビ）漁業の乗船実習及び陸上実習というものでした。

図 5　揚網作業とイセエビ外し体験

当日は、千葉県指導漁業士の方が講師役を務め、他の県立高校水産科生徒 4 名と共に船上での刺網の投揚網作業見学、イセエビ外し体験、陸上での網掃除、網繕いや荷受作業を見学しました。

特に、深夜の揚網作業と網に掛かったイセエビ外しでは、揺れる船上作業のため、初めて船酔いを経験しました。

船酔いはとても辛かったですが、漁師の作業を目の当たりにしたことで、仕事内容を理解することができました。

漁師の仕事は船上作業だけではなく、陸上でも網繕いといった地道で大変な作業があることを知ることができ、なおかつ、今まで以上に漁業や魚に興味を持つことができたため、水産業インターンシップは大変有意義なものとなりました。(図 5)

また、これまでの「漁師になりたい」との漠然とした思いから、少し道が開けてきたように感じました。

3-4　年丸との出会い

水産業インターンシップから１ヵ月後、再び普及指導員の方から「いすみ市大原地区で若い新人漁師を募集している船があるけど、一度話を聞いてみないか？」との話がありました。

これはまたまたチャンスと思い、早速９月に母と一緒に現地を訪れ、先方へ面会に行きました。

これこそが、現在私が就業する「年丸」のご家族でした。

面会の際、仕事内容については年丸親子（荘司年春さん・荘司秀吉さん）から、待遇や住居などについては主に秀吉さんの奥さんから丁寧に説明してもらい、住居は無償で提供してくれるとのことでした。

実際に船にも乗せてもらいました。

給料の額についても明確に示してくれましたが、一貫して漁師になることを希望していたため、金額についてはさして問題にはしておりませんでした。

また、年丸からは「うちは他船より稼ぐが、その分仕事も厳しい」と言われたのですが、漁師になれるのであれば厳しくても構わないと思い、卒業後の平成 24 年４月から船に乗るということで、その日のうちに話がまとまりました。

その後、４月までの半年間に土日や冬休みを利用し現地を訪れ、イナダまき刺網漁やトラフグはえ縄漁の体験を行うなど、漁師になるため準備を進めました。

船酔いはしましたが、「回数乗るうちに船酔いは無くなるだろう」と思っていました。

4.　漁師としての勉強

4-1　長期研修

平成 24 年３月に高校を卒業し、すぐさまいすみ市大原漁港近くの住居へ引っ越し、念願の漁師となるため、初めての１人暮らしが始まりました。

また、約１年の間は夷隅東部漁業協同組合（1 次受入機関）と年丸（2 次受入機関）を受入機関とした漁業研修制度（平成 24 年度漁業就業者確保・育成対策事業）を利用し、約１年間の長期研修を受けることになりました。

この長期研修は、「漁業になじみのない地域の若者などが円滑に就業できるようにする」ための研修で、大きく分けて「座学研修」と「実践研修」で構成されており、まさに私にとってとてもありがたい研修でした。

図６　漁業知識研修の様子

4-2　座学研修（平成 24 年５月）

座学研修は、主に漁業知識に関するもので、漁協事務所にて受講しました。

いすみ市大原地区の漁業の現状や歴史、風土

及び漁協の業務内容などについて、講師である漁協職員の方と年丸から話を聞き、今後、漁師として働いていくための心構えを学ぶことができました。（図 6）

4-3　実践研修（平成 24 年 4 月～平成 25 年 2 月）

実践研修は、「陸上作業指導」と「洋上指導」から構成されており、研修期間は平成 24 年 4 月から翌年 2 月までの約 1 年間と長期間にわたりました。

陸上作業指導では、魚の選別方法、漁具の製作・補修、漁船の保守・点検などを学びましたが、特に網の補修作業はとても複雑で難しく、今でも勉強の毎日です。（図 7）

図 7　陸上作業指導の様子

洋上指導の研修には、最も時間が費やされました。

操業中の漁具、漁労機器の取扱い方や魚の釣り上げから保管までの手順、鮮度保持のための技術を学ぶとともに、洋上における危険回避の方法を学びました。

漁業種類はおよそ 3 ヵ月前後のサイクルで変わるため、その都度関連する作業全てを一から丁寧に教えてもらいました。

特に、10 月後半からのはえ縄漁では、危険な作業を伴うことが多いと聞いており、最初は緊張しながらの研修でした。

また、海上の天候や風向きなどから、その後の天候を判断する方法なども教えてもらいました。

それから、肝心の船酔いについてですが、研修開始から半年の間は続きましたが、「足手まといになってたまるか！早く一人前の漁師になってみせる」との思いから必死に耐えたところ、ついに克服することができ、今では何ともありません。

4-4　漁業現場での長期研修を終えて

大きな怪我や病気もほとんど無く、1 日も休まず研修を受け、約 1 年間にわたる研修を終えました。

研修では漁労技術について学んだだけでなく、大変な苦労をして獲ってきたイナダが

とても安く買われてしまうこと、マダイの単価が季節で大きく変わることや、周りの漁師の高齢化が思っていた以上に進んでいることなど、新聞やテレビからの情報だけでは知ることができないような漁業の厳しい現状についても、身をもって学び知ることができました。

厳しいことを承知のうえで「(研修を終え) 正式に漁師になりたい！自分は漁師としてやっていくことができる」と思えるようにまでなったのも、年丸のご家族をはじめとする多くの方々のサポートがあってこそだと感じます。

4-5　現在に至る

平成 25 年 4 月、研修生から年丸の正社員へと昇格し、ようやく念願の漁師になることができました。

(表 2, 図 8)

実際に働いてみると苦労はたくさんありますが、小学生の頃から思い描いていた憧れの職業であったこともあり、海という大自然から得られる漁獲の喜びや新しい発見など私にとって興奮の毎日です。

子供の頃からの「美味しい魚を食べたい」という願いも叶うようになり、出刃包丁を使って自分で魚を捌き料理することもできるようになりました。

表2　就業までの流れ（概略）

年度	月	私	（有）年丸
H4			有限会社年丸として法人化
H5		市原市で生まれ育つ	
		～	
H20	5月		漁業就業支援フェア2008出展
	7月		漁業就業支援フェア2008出展
H21	4月	県立高校普通科入学	
H22	5月		千葉県農水産就業相談会出展
	7月		漁業就業支援フェア2010出展
H23	7月	**漁業就業支援フェア参加**	**漁業就業支援フェア2011出展**
	8月	水産業インターンシップ参加	
	9月	**面会（マッチング）**	
	3月末	県立高校普通科卒業、いすみ市へ	
H24	4月	年丸の元で長期研修受講開始	研修生として受け入れ
	2月末	長期研修受講終了	研修生受け入れ終了
H25	4月	年丸へ正社員として就業	正社員として雇用

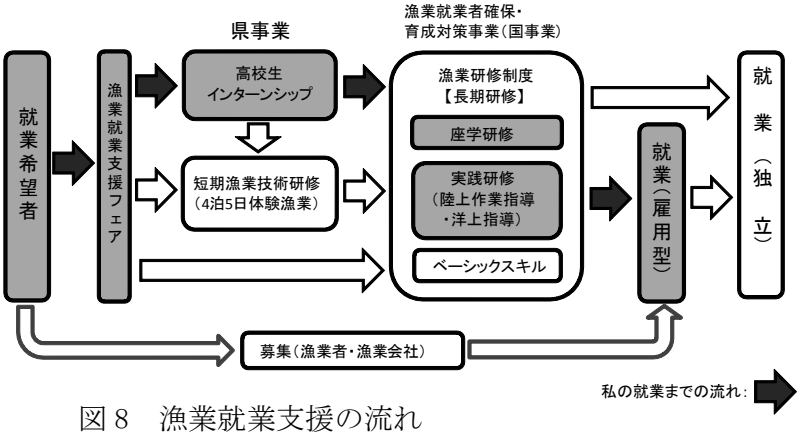

図８　漁業就業支援の流れ

また、今年 6 月から高齢を理由に乗組員が 1 人減り 3 人操業になりましたが、正社員となった時から「3 人操業となった際の仕事のやり方を、常に頭の中でイメージしておくように」と言われ、準備をしていたこともあり、いざ 3 人になった際もスムーズに仕事に取り組むことができました。

実際に操業の様子を見た普及指導員の方からも「今年 6 月からのチームワークとは思えないくらい動きにムダが無い」と言われ、自信を強めました。

1 年の研修を終えて「漁師を続けられる」とは思っていましたが、「本当に続けられる」と確信したのは、3 人操業になってからでした。(図 9)

図 9　操業の様子（上：マダイはえ縄漁、下：イセエビ固定式刺網漁）

5.　波及効果

私を研修生として受け入れたことも契機のひとつとなり、年丸（荘司年春さん）は平成 24 年度に「第 11 回聞き書き甲子園“海・川の名人”」の名人として、全国 20 名のうちの 1 人に選ばれました。

実際に都内の高校生が名人の元を訪れ直接話を聞いたのですが、「一に努力、二に努力」を信念に海や魚のことを熱く語る名人を目の当たりにした高校生は、自分と同じく漁業や海に大変興味を持ってくれたと思います。

また、漁業就業支援フェアに来場した高校生の私が無事年丸に就業したことは、浜の間にも伝わり、今年 6 月に同じ浜の漁業者が「漁業就業支援フェア 2013」へ出展した結果、面談した来場者が 7 月に「短期漁業技術研修（県事業）」を受け、今後は私と同様、長期研修を受講することとなりました。

私のような地域外のサラリーマン家庭出身者（非漁家出身者）であっても、自身のやる気と周囲のサポートがあれば就業できることが証明されました。

今後、私のような地域外のサラリーマン家庭出身の新規就業者が増えて、仲間作りが

できるようになれば、慣れない土地での様々な不安を互いに解消することができ、就業後の長期定着に繋がり、若い漁業就業者も増えていくと考えています。

6．今後行動したいこと

私は、今はまだ仕事を覚えるだけで精一杯ですが、年丸をはじめ周りの方々のサポートもあり、充実した毎日を送っています。

一方で、漁業の厳しい状況は日々変わらないため、この状況を自分の力で少しでも変えていくことができればと考えます。

表3 漁業就業者数（千葉県）　（単位：人）

区分		昭和63年	平成5年	10年	15年	20年
就業者総数		10,950	8,924	7,882	6,929	5,916
	男性	9,146	7,397	6,524	5,745	5,024
	女性	1,804	1,527	1,358	1,184	892
男年齢別	15～24歳	237	130	96	156	137
	25～39歳	1,376	796	609	517	560
	40～59歳	5,303	3,626	2,530	1,907	1,435
	60～64歳	1,197	1,354	1,242	904	712
	65歳以上	1,033	1,491	2,047	2,261	2,180
全国（千人）		392	325	277	238	222

※標本調査による推計値のため、合計と内訳が一致しない場合がある。　（資料：漁業センサス）

特に、県内及び全国規模での漁業就業者の減少と同様に、夷隅東部漁協でも高齢などを理由に漁業を辞める人が多い状況です。（表 3）

しかし、後継者や私のような新規就業者は少なく、中でも私と同世代（～19 歳）の新規就業者は、県内でも毎年わずかな人数しかいないと聞いています。（表 4）

表4 年齢別新規就業者数（千葉県）　（単位：人）

	区分	計	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～
平成22年度調査	新規就業者数	84	14	24	26	13	6	1
	うち非漁家出身	74	11	24	24	11	3	1
平成23年度調査	新規就業者数	51	9	14	14	8	4	2
	うち非漁家出身	43	7	13	14	4	3	2
平成24年度調査	新規就業者数	54	4	26	13	8	1	2
	うち非漁家出身	45	4	22	12	4	1	2
3年間合計	新規就業者数	189	27	64	53	29	11	5
	うち非漁家出身	162	22	59	50	19	7	5

（資料：千葉県水産課調べ）

正直なところ、漁業に興味を持っている若い人はいると思います。

けれども、中学生から高校生になるにつれて、漁業よりも他のことへと興味が移り、興味や関心が薄くなってしまうのではないかと思うので、中高生に対して漁業へ興味や関心を持ち続けてもらうような取組みがもっと必要なのではないかと思います。

また、私の経験上、もっと中学生に対して漁業をアピールしていけたらと思います。

毎年、年丸では地元中学生を対象とした漁業体験を行っていますが、私の出身地、市原市のような身近に漁業が無い地域の中学生にこそ、アピールすることも大切かもしれません。

高校生インターンシップは、私自身が漁業を知る良い機会でした。

若い新規就業者を増やすためには、私自身のみの力では解決できないことが多いのですが、私が周りからサポートを受け就業できたように、今度は私が少しでもサポート役に徹することができればと考えます。

私がそうであったように子どもの時から魚や漁業に興味を持ってもらえるよう、私だからこそできる取組みがないものか考えていきたいです。

私のような新規就業者が 1 人でも増え、最終的に地域漁業が元気になれば嬉しいです。